

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	○児童の「意欲を高める」「理解を深める」授業を実践する。基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、それを活用し主体的・対話的な授業を充実する。	中間評価	最終評価
		○一人1台タブレット端末効果的に活用し、個別最適化された学び・対話的な学び・家庭と連携した学び等の充実を図る。ICT機器を効果的に活用し、児童の驚きや発見を導き、理解を深める。ユニバーサルデザインの視点から個に応じた学びの充実を図る。		
環境作り				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 板書や教科書の視写をする際に、字形に気を付け、丁寧に取組む児童が多い。しかし、速く書くことに気をとられ、丁寧に書くことができていない児童もいる。</p> <p>学 文を書くことについては意欲的な児童が多いが、習った文字を使わずに文を書いたり、同じ読み方の別な漢字を使ってしまったりする様子が見られる。</p> <p>学 文章を読み、叙述に即して考えたり根拠となる部分を探したりすることについては、語彙力の差が大きく、言葉の意味理解が十分にできず、内容を正しく読み取ることが困難な児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写の基本である「正しく」「丁寧に」「速く」の3点を指導し、個人の状況に合わせて3つの中で自分に足りないものは何かを考えさせることが課題である。</li> <li>新出漢字を習う際、読み方や書き方のみを注意している児童がいる。そのため、漢字の成り立ちや意味について触れたり、使用場面を考えさせたりする指導が必要である。</li> <li>語彙力の差が大きく、言葉の意味を理解できていない児童がいる。個人差を配慮した上で適切な指導をしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書や教科書の視写に取り組む時間を確保する。その上で、3点のうち自己の課題が何かを考えるようにさせ、重点項目を克服できるように取り組ませる。</li> <li>新出漢字を学習する際、成り立ちや意味を指導するとともに、どのような場面で使われているのかを発表させ、合っているかを考える時間を設ける。</li> <li>タブレット端末の使い方に慣れ、家庭でもドリル学習に取り組めるようにして、理解の定着を図る。</li> <li>文章の読み取りの場面だけでなく、普段使っている言葉の意味に着目させ、どのような意味かを説明し合ったり教えたりする。</li> </ul>		
	算数	<p>学 数や長さ、広さ、かさについての大小関係は、概ね理解できている。</p> <p>学 繰り上がり、繰り下がりのある計算は、概ね理解できている。しかし、指を使って考える児童もおり、正確さや解く速さについては個人差が大きい。</p> <p>学 文章問題を読んで具体的な場面を想像し、量の増減を基に立式をすることについては、理解できている児童が多い。ただし、「どちらがどれだけ」の問いに対しては、文章の読み取りが十分でなく、正答を導き出すことができない児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習時には理解している様子が見られるが、以前に習った単元の学習内容を忘れてしまっていることがある。定着するように継続的な指導を行うことが必要である。</li> <li>繰り上がり・繰り下がり計算については、指を使って教えてしまうことで解く速さが遅くなってしまふ。さらに、数え間違いにより正確さが低下しているのので、正しく計算できる力を身に付ける指導が必要である。</li> <li>聞かれていることは何かを正しく理解できるように、文章問題の内容を丁寧に確認していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数単元前の学習内容を宿題として出したり、普段の生活の場面で既習事項を生かした発問をしたりする。</li> <li>タブレット端末の使い方に慣れ、家庭でもドリル学習に取り組めるようにして、理解の定着を図る。</li> <li>算数の授業時間内に足し算や引き算の計算に取り組む時間を設け、計算に慣れるようにする。正解数を増やしたり、計算にかかる時間を短くしたりできるように繰り返し計算問題に取り組ませていく。</li> <li>文章題を解く際には、分かっていることと聞かれていることを確認するとともに、数量の多寡や増減を考えさせることで、正しく意味を理解できるようにする。</li> </ul>		

3	国語	<p>調「話すこと・聞くこと」において、区及び全国の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>調「書くこと」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>学順序立てて書いたり話したりすることができるようになってきたが、自分の思いや考えを表現することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話を聞き取る」ことを苦手とする児童が多い。話の中心や大事なキーワードを選んだり聞き取ったりすることができる指導が必要である。</li> <li>文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多い。指定された長さで文章を書けるようにする指導が必要である。</li> <li>気持ちを表すキーワードを基にして、そこに必ず理由を付け加えられるように引き続き指導をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の中心や大事なキーワードを捉えるために、文頭表現や文末表現などに気を付けさせる。また大事なことを落とさずに聞くために、よい聞き方やよい話し方についての話型や聴型を示し、指導する。</li> <li>文章を書くことへの苦手意識を減らすために、その日あったことを振り返る文章を毎日書かせる宿題を設ける。</li> <li>文章を書く際に、書き方の定型を提示し、正しい書き方を習慣付けさせる指導を行う。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>		
	算数	<p>調「1000までの数」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>調「長さ・かさ」では、文章を書くことについて区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>学計算問題や九九の習熟には個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10や100を一つのまとまりとして見て、数を相対的に見られるようにする指導が必要である。</li> <li>任意単位を用いて測定することはできているが、かさの差を求めるときに問題文の内容を正確に読み取れるように指導をする必要がある。</li> <li>加法、減法の筆算の仕方や九九を正確に覚え、忘れないよう、ベーシックタイムや家庭学習で繰り返し指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項がまだ十分に身に付いていないため、毎日の家庭学習で復習に取り組む。</li> <li>文章問題を読むときに、分かっていることと求めることを区別できるよう、下線を引く指導をすることで、正しく立式できるようにする。</li> <li>加法、減法の筆算の仕方や九九などは、始業時に行うチャレンジ問題を活用し、知識の定着を図る。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>		
4	国語	<p>調全国正答率を上回っているが、第3学年の配当漢字を書くことが身に付いていない。</p> <p>調「言葉の学習」では、漢字の部首について目標値を上回っているが、国語辞典の使い方の理解が十分ではない。</p> <p>調2段階構成の作文や中心を明確にして文章を書くことについては目標値を上回っているが、指定された長さで文章を書くことに課題がある。</p> <p>学第2学年の漢字については、概ね定着している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3学年配当の漢字について、正しく読むことや書くことに課題がある。また、文章に取り入れて書けるような指導が必要である。</li> <li>五十音の順番について理解していない児童がいるため、国語辞典を早く引けるようにする手立てが必要である。</li> <li>「書くこと」について、苦手意識は高い。3～4文の長さでしか書くことができないので、文章を書くことに慣れるような指導が必要である。</li> <li>繰り返し指導しないと既習の漢字を忘れてしまうので、自分で学習できるような手立てが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読むことについては、授業中や家庭学習に音読を取り入れるなどし、言葉に慣れ親しませるようにしていく。また、文章を書く漢字テストを定期的に行い、漢字の意味と使い方を理解できるようにする。</li> <li>国語だけでなく、総合的な学習の時間などの調べ学習でも、国語辞典を引く機会を多く取り入れ、五十音の順番等に慣れさせ、定着を図る。</li> <li>書くことについては、短い文章で自分の考えや感想を書く活動を設定し、苦手意識を克服させる。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>		
	算数	<p>調「わり算」の2桁÷1桁＝1桁（余りあり）の計算については、目標値を下回っている。また、余りの処理に気を付けて答えを求めることについても目標値を下回っている。</p> <p>調「10000より大きい数」については目標値を上回っているが、数の相対的な大きさの理解については目標値を下回っている。</p> <p>学計算について苦手意識をもっている児童が、計算に意欲的に取り組むようになった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算の習得に課題がある児童が多いため、わり算についても計算を誤ったり、余りを書き忘れたりする児童が多い。正しく計算をできる力を身に付ける指導が必要である。</li> <li>ある数を、単位に着目してそのいくつ分と見る方法や数の仕組みについて理解できるように指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の時間のはじめに、四則計算の小テストに毎回取り組みさせることで、かけ算・わり算の習得を図る。</li> <li>適切な単位を使えるようにさせるために、身近なものの重さに置き換えて覚えさせるなどの具体物を活用した指導を行う。</li> <li>家庭学習や授業時間でタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>		
5	国語	<p>調「話合いの内容を聞き取る」において、全国正答率を下回っている。</p> <p>調「漢字を読む」「漢字を書く」において、全国正答率を少し下回っている。</p> <p>学「始め・中・終わり」を意識して文章を書くことは概ね定着している。要約文を書くことは、まだ十分に身に付いていない状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く際に、要点を押さえて聞き取ることが苦手である。大事な言葉を聞き取る力を身に付けられるようにする指導が必要である。</li> <li>繰り返し漢字の読み・書きを練習をすると定着してくるが、時間が経つと忘れてしまう。既習漢字の読み・書きを繰り返し練習する時間の設定が必要である。</li> <li>説明文において、中心となる言葉や文を見付けられる力を身に付ける指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で短い内容を聞きとってメモをする時間を継続的に設定する。</li> <li>家庭学習に音読を入れることで漢字を読むことに慣れさせる。また、授業の中で新出漢字や間違えやすい漢字について触れる機会を増やし、漢字の読み・書きの力を定着させる。</li> <li>説明文において、中心となる言葉や文を見付ける活動を設定し、その根拠まで考えを交流させることで見付ける力を身に付けていく。</li> <li>家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</li> </ul>		

	算数	<p>調「億と兆・がい数の表し方」において、全国正答率を下回っている。</p> <p>調「小数」「垂直・平行と四角形」において、全国正答率を少し下回っている。</p> <p>学個人差が大きい。かけ算九九、わり算など習得が十分ではない児童もいる。</p>	<p>・「〇の位までの概数」「上から〇桁の概数」という言葉の意味を理解させる必要がある。</p> <p>・小数のかけ算やわり算において、正しく小数点を付けられるようにする指導が求められる。</p> <p>・苦手意識をもっている児童は、既習事項を繰り返し復習する必要がある。</p>	<p>・大きい数を扱う時に、位を確認したり概数での表し方を確認したりする場を設ける。</p> <p>・小数点の位置や単位など見直すときのポイントを示す。</p> <p>・かけ算九九やわり算など習得が十分ではない児童には、個別に家庭学習に加えるなど丁寧に対応し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</p>		
6	国語	<p>調「文章を書くこと」において、目標値、全国の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>学目的や意図に応じて構成を考え、文章を書くことを苦手とする児童が多い。また、段落の意味やまとまりを意識して書くことがまだ十分に身に付いていない。</p> <p>学第5学年の漢字については、概ね定着している。</p>	<p>・はじめ・中・終わりの構成を考えながら書くことや、読み手に伝わるよう効果を考えて書けるようにする指導が必要である。</p> <p>・漢字がもつ意味を理解していないため、同音異義の漢字と間違える児童が多い。意味を正しく理解させていく必要がある。</p>	<p>・国語に限らず、各教科でも学習のまとめを書いたり、自分の考えを文章で表現したりする時間を意図的に設ける。</p> <p>・文章を書く際は、短冊や構成メモを活用するとともに、工夫した表現や自分の気持ちを書けている部分に線を引くなど価値付ける指導を行う。</p> <p>・漢字のミニテストを継続して行い、新出漢字に加えて既習の漢字を書く機会を設ける。</p> <p>・家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</p>		
	算数	<p>調「分数と小数」において、区及び全国の平均正答率を下回っている。</p> <p>調「平均」において、区の平均正答率を下回っている。</p> <p>学小数の計算、分数の計算に課題が見られる。また、分数の計算では、通分と約分に課題があり、数の性質の理解が十分でない。</p>	<p>・算数的活動を通して、数の見方や感覚、計算の意味の理解などを高める指導が必要がある。</p> <p>・小数のかけ算やわり算、分数の約分や通分などにおいて、計算の仕方が定着しておらず、正しく計算する力を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>・文章題では数直線を活用するよさを指導し、正しく立式する力を高めていく。</p> <p>・家庭学習に既習内容を取り入れ、復習の機会を設けることで、小数や分数の四則計算の定着を図る。</p> <p>・家庭学習を中心に授業時間でもタブレット端末を使ったドリル学習に取り組みさせることで、理解の定着を図る。</p>		
	音楽	<p>学音楽が好き、もっともっと楽しみたいと考える児童が多い。</p> <p>学読譜や器楽の奏法で苦手意識を感じる児童もいる。</p>	<p>・いろいろな楽曲を楽しむために、楽器の基本的な奏法を身に着けることが課題である。</p> <p>・個人でもグループでも臆せず学びを楽しめることが課題である。</p>	<p>・発音や呼吸の仕方に気を付けて自然で無理のない歌い方で友だちと協働して声を合わせて歌ったり、リズムを合わせて手拍子を打ったり、いろいろな楽器で演奏したりする。</p> <p>・楽曲の特徴やよさを味わって聴く学習に取り組む。</p>		
	図工	<p>学豊かな発想をする児童が多いが、なかなかイメージが浮かばない児童がいる。</p> <p>学イメージをもつことはできるが、どのように表したらよいか分からない児童がいる。</p>	<p>・自分の様々な体験を作品づくりに生かすことができるような指導が求められる。</p> <p>・はさみやのこぎりなどの切る道具や絵の具やクレヨン等の描画の道具を、自分の思い通りに使えない児童がいる。様々な道具を使い慣れるような指導が求められる。</p>	<p>・表現の幅を広げるために様々な作例を、ICT機器を活用して示し、自由な発想ができるようにする。</p> <p>・既習の道具の使い方を授業の初めに使い方の確認をしたり思い出したりするための時間を設け、繰り返し取り組むことで操作がスムーズにできるようにする。</p>		
	特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。